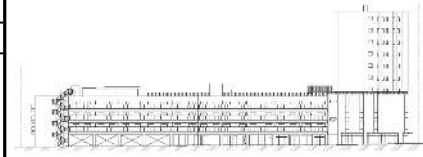


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岩槻駅前複合施設計画	階数	地上11F、地下1F
建設地	さいたま市岩槻区本町一丁目4466	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、商業地域、準防火地域	平均居住人員	500人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,840時間/年(想定値)
建物用途	病院集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年5月 予定	評価の実施日	2019年11月15日
敷地面積	2,751 m <sup>2</sup>	作成者	津木 博行
建築面積	1,777 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月15日
延床面積	7,908 m <sup>2</sup>	確認者	上浪 寛



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

環境品質 (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 87%  
③上記+②以外の 87%  
④上記+ 87%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
音環境: 3.2 温熱環境: 2.4 光・視環境: 3.3 空気質環境: 3.0	機能性: 3.4 耐用性: 2.8 対応性: 2.8	生物環境: 2.0 まちなみ: 3.0 地域性: 3.0

**LR のスコア = 3.1**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮: 4.7 自然エネ: 2.7 設備システ: 3.2 効率的: 3.0	水資源: 2.2 非再生材料の使用削減: 3.0 汚染物質回避: 3.0	地球温暖化への配慮: 3.5 地域環境への配慮: 2.6 周辺環境への配慮: 3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
駅前立地ではあるが、屋上・地上ともに、緑地の確保を積極的におこなっており、地球温暖化防止に配慮している。	特に無し
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆の建材を採用し、室内環境の向上に配慮した設計としている。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 立地の特性を考慮し、線路側に高木植栽による緑地を設け、駅舎ホームおよび電車からの景観にも配慮した設計としている。
<b>LR1 エネルギー</b> 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」等級4を取得予定。設置される照明設備にLEDを採用することにより省エネルギーに配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 雨水流出抑制への取り組みを行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)岩槻駅前複合施設設計画**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.5</b>	0.15	<b>2.9</b>	1.00	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.42	<b>3.0</b>	0.42	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.42	<b>3.6</b>	0.42	
1 開口部遮音性能		T-2サッシの採用				5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	0.15	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.3</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.4</b>
2.1 室温制御						<b>2.4</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温						3.0	0.43	3.0	0.58	
2 外皮性能						3.0	0.28	3.0	0.42	
3 ゾーン別制御性						1.0	0.29	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.3</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30	<b>4.1</b>	0.30	
1 昼光率		適切な採光計画を行っている				5.0	0.60	5.0	0.58	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.07	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.35	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気環境</b>						<b>3.3</b>	0.25	<b>2.7</b>	1.00	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.52	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.32	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.15	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		喫煙室を設けている。				5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.1</b>	0.40	<b>3.9</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>4.5</b>	0.60	
1 広さ・収納性		ゆとりのある居室広さとしている。				-	-	5.0	0.76	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	0.24	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能を確保している。。				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主な設備の管材が全てCランク以上。				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>2.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.2</b>	0.23	<b>3.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		空間形状に自由度がある。	4.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.23	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.54	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ基準に適合した計画としている	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			2.7	0.10	-	-	2.7
3 設備システムの高効率化		BEI=0.89、BEIm=0.8	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.76	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.24	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		外壁タイル	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		雨水流出抑制への取り組みを行っている。	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		出入口からの駐車場までのアプローチを長く確保している	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策へ配慮した計画としている。	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	